

INTERVIEW

ブラジル沖油田向けFPSO備船事業にプロジェクトファイナンス

日本企業による大水深対応FPSOの建造・運営サービスを支援

産業ファイナンス部門 船舶・航空宇宙部 第1ユニット

若月 智愛 ユニット長、高見 昌樹 調査役に聞く



若月 ユニット長



高見 調査役

深海の海底油ガス田開発向けの「大水深対応のFPSO」

近年、世界的に海底油ガス田の開発が進められています。2000年代に入ると、水深1,000mを超える大水深の油ガス田開発が盛んに行われるようになり、ブラジル沖合などで海底油ガス田開発を手掛けるペトロbrasも、大水深油ガス田の開発に力を入れています。今回のプロジェクトは、リオデジャネイロ州沖合約250km、水深約2,200m、海底約5,000mのプレソルト層（岩塩層直下の層）にある油田の開発に伴うものです。

MODECは、FPSOの設計・調達・建造・据付のみならず、操業・保守も行う世界有数の実績を持つ日本唯一のFPSO事業体です。特に、大水深に対応できるFPSOに強みを持ち、トップクラスの実績をあげています。今回、ペトロbras向けにFPSO1基（生産能力：原油18万バレル/日、ガス212百万立方フィート/日、原油貯蔵能力140万バレル）を建造し、SEPMV30が21年間にわたり備船サービスの提供を行います。

「MODECはブラジルをFPSO事業の有力市場と位置付けており、ペトロbras向けFPSO備船事業は今回で10件目にのびります。うち9件についてJBICも融資を行ってきました。

しかし、ここ数年は北米のシェールガス開発などの影響もあって原油価格が下落しており、採掘コストの高い海底油ガス田の開発が停滞し、FPSOの新規案件が激減していましたため、今回はMODECにとって3年ぶりの受注でした」と、若月ユニット長は概要を紹介します。

久々の日本企業によるFPSO大型案件のPFを組成

JBICには、2017年3月にMODECが応札した段階で検討依頼があり、同社が受注した同年10月から正式に案件形成を開始しました。

本件の担当となった高見調査役は「MODECからのペトロbras向け9隻目の案件とはいえ、当時、備船者であるペトロbras元総裁に関する汚職疑惑がニュースとなっており、これまでとは違った課題もクリアしなくてはなりませんでした」と振り返ります。

「当時、ブラジル経済の低迷や原油価格の下落によってペトロbrasの外部格付けが低下していたうえ、深刻なコンプライアンス問題が表面化して与信評価が大きく下がっていました。そこで、ブラジルに行って同社と面会し財務状況やガバナンス体制の改善度合いなどを精査するとともに、政府関係機関、金融機関や格付機関など第三者のヒア

国際協力銀行（JBIC）は、2018年3月、三井海洋開発株式会社（MODEC）が三井物産株式会社、株式会社商船三井、丸紅株式会社および三井造船株式会社と共に出資するオランダ王国法人Sepia MV30 B.V.（SEPMV30）と、プロジェクトファイナンス（PF）による貸付契約を結びました。ブラジル連邦共和国の国営石油会社Petróleo Brasileiro S.A.（ペトロbras）がブラジル沖合の油田開発に使用する大水深対応のFPSO*を、SEPMV30がペトロbrasに対して長期備船サービス（リースおよび運転・保守点検等）する事業に融資するもので、国内外の民間金融機関7行との協調融資です。

*FPSO: Floating Production Storage and Offloading System
浮体式の原油の一次処理（随伴ガス・水の分離）・貯蔵・積出を行う設備。



画像提供: 三井海洋開発(株)

※本FPSOと同型のもの

リングを入念に行いました。

その結果、本件の検討を進めることについて何とか関係部の同意を得ることができましたが、スポンサーや協融行とも協議を重ねる過程で、贈収賄関連条項などの契約書への落とし込みに苦心しました。時間的制約もあり、このままでは融資が実現できないのではと思う局面もありましたが、日本企業が久々に受注した大型案件のPF組成を何とかまとめることができたことに安堵しています」と高見調査役。

MODECによるFPSOの建造はすでに始まっており、2021年にペトロbrasに引き渡される予定です。

西アフリカ沖など大水深対応FPSO活躍の舞台を広げる

「FPSO市場は、比較的浅い海底油ガス田用では競争が多く価格競争が激しくなっています。海底油ガス田開発自体も大水深域に広がっており、大水深対応FPSOの需要拡大が見込まれます。MODECはこれまでに実績があり自社の優位性を発揮できる大水深対応FPSOを重視した戦略を展開しています。

一方、日本政府の『未来投資戦略2017』において、日本周辺海域に存在するメタンハイドレートの開発・商業化に向けた官民協力の促進がうたわれているところ、本プロジェクトが将来そうした海洋資源開発に欠かせないFPSOの操業に係る技術供与・ノウハウの向上にもつながります」と、若月ユニット長はFPSO事業を支援する意義、将来性について語ります。

「そうした未来につなげるためにも、ペトロbras向けだけでなく他の石油ガス開発企業、西アフリカ地域など世界の海底油ガス田開発に日本企業が貢献できるように、公的金融機関として金融面から支援していきたいと考えています」と高見調査役は今後の取り組みについて語っています。

ブラジル沖油田開発向けFPSO備船事業へのPF

JBICは、2018年3月、MODECが三井物産株式会社、株式会社商船三井、丸紅株式会社および三井造船株式会社と共に出資するオランダ王国法人Sepia MV30 B.V.と、約4億9,200万米ドル（JBIC分）を限度とするPFによる貸付契約を結びました。

本融資は、ペトロbrasが権益を有するブラジル沖Sepia油田開発のためのペトロbras向けFPSO長期備船サービス事業（21年のチャーターサービス）が対象。株式会社三井住友銀行、ING Bank N.V.、Société Générale、株式会社みずほ銀行、Oversea-Chinese Banking Corporation Limited、株式会社三菱UFJ銀行、ABN AMRO Bank N.V.の国内外民間金融機関7行との協調融資（総額約9億8,700万米ドル）です。